

(様式2-2)

令和7年度「校内サポートルーム(KSR)研究指定校事業」 成果報告書

1 指定校・指定校群 (丸亀市立飯山北小学校)

2 実施内容

(1) 支援体制

KSR 担当教員が中心となって学級担任や管理職、SC・SSW と情報交換を行いながら支援を行った。特に SC や SSW は、中学校配属であることから中学校進学後のことも考え、児童との積極的な関わりを進めている。

昨年度から継続して、KSR 担当教員が児童一人一人の一日の活動の様子を毎日記録したファイルを作成している。このファイルは、管理職及び学級担任に毎日回覧し、情報共有を行っている。児童の言動を共有することで、気持ちの変化を把握したり、関わり方の手掛かりとしたりするなど、支援に活用することができた。

また、校内でケース会議を開催し、児童に合った支援方法を検討している。今年度は比較的早い段階からケース会議を実施し、関係者間で共通理解を図ることができた。その結果、支援体制を円滑に整えることができ、児童の進級に伴うストレスの軽減につなげることができた。

(2) 環境整備

教室は、玄関とは別の出入り口から他の児童と会わずに登下校できるように配慮した。また、個別学習用の座席と集団活動ができる開かれた空間を整備し、児童が活動する場所を選択できるようにしている。

昨年度の KSR 児童の様子から、KSR 内では創作活動や読書を希望する児童が多いことが分かった。そこで今年度は、子供が作りたいと思ったときにいつでも取り組めるよう、創作活動に必要な準備物を多数整えた。また、図書室から発達段階に応じた本を数十冊借り受け、いつでも読書ができる環境を整備した。さらに、学校司書と連携し、週 1 回程度図書室を利用する機会を設けている。

(3) 学習支援

KSR では、自主性を重んじ、1 日の学習スケジュールは原則として本人が決めることとしている。授業については、オンラインでも参加できるよう環境を整備しており、児童の体調や気持ちに応じて柔軟に学習形態を選択できるようにしている。また、子供一人一人に合った難易度のプリントを各教科ごとに用意し、無理なく学習に取り組めるように配慮した。さらに、短時間で解ける問題をくじで引き、解答後にスタンプを押す仕組みを取り入れることで達成感を得やすくなり、子ども達の学習意欲を高めている。

3 成果

(1) 校内サポートルームにおける児童生徒の様子

現在、3年生3名、5年生1名がKSRを利用している。

3年生のある児童は、前年度の後半から登校が難しくなり、現在はKSRを週1回程度利用しながら、主に給食の時間を中心に登校している。欠席が続いた際には、KSR担当と学級担任が連携して、家庭訪問を行うことで、学校との繋がりが途切れないよう配慮している。

また別の児童は、登校後に早退する状況が続いていたが、午後の時間帯にKSRと学級を併用することで、学校で過ごす時間を段階的に延ばしている。気持ちを整理する場が確保されたことで、登校に対する不安が徐々に軽減している。

さらに、教室で過ごすことに不安を感じている児童もおり、心身の落ち着きを目的として、毎日一

定時間、別室を利用している。家庭でも登校への不安が見られていたが、KSR を利用し始めてからは、KSR が安心できる場所となり、学校生活の継続に繋がっている。

5年生は、前年度から KSR を利用しており、KSR が安心できる居場所として定着している。休み時間を中心に学級の児童や担任と良好な関係を築き、オンラインでの活動にも参加するなど、学級との繋がりを保っている。また、保護者と学校が継続的に連携したことで、校外で宿泊を伴う行事にも参加することができ、活動の幅が広がった。

(2) 校内サポートルームにおける活動及び支援の工夫

○協働的な活動

KSR では個別での活動が多く、他の児童と協力して物事に取り組んだり、協調性やコミュニケーション能力を育んだりする機会が少ないことが昨年度の反省点として挙げられていた。そこで今年度は月に1回、KSR の児童が協力して工作に取り組む時間を設けた。活動中はKSR 担当が必要以上に口を出さず、児童の自主性を尊重し、見守る姿勢で支援を行った。

その結果、高学年の児童が低学年の児童を手伝う様子が見られるなど、児童同士の関わりが生まれ、協調性やコミュニケーション能力を育む良い機会となった。



○出席の可視化

昨年度は、1日の様子を記録する欄に、登校・下校時間を記入していたため、1週間や1ヵ月単位で出席状況や登校・下校時間を振り返ることが難しかった。そこで今年度は、出席の可否・登校時間・下校時間を1枚にまとめて記録するようにしたことで、振り返りがしやすくなった。また、学級とKSR を併用して利用する児童もいるため、その児童については、何時間目に学級で過ごし、何時間目にKSR で過ごしたのかが分かるように記録した。1枚にまとめて記録することで出席状況が把握しやすくなり、登校渋りが見られた際などに、状況を振り返るための手掛かりとして活用することができた。

(3) 総括

昨年度よりKSR の認定を受け、今年度は運用開始から2年目を迎えた。2年目となったことで、教職員の間におけるKSR の認知度が高まり、その役割や有効性についての理解が進んできている。その結果、登校渋りや学校生活への不安が見られる児童に対して、KSR を積極的に活用しようとする動きが校内全体に広がりつつある。特に、登校渋りが見られ始めた初期段階から、学級担任等からKSR 担当へ速やかに情報共有がなされるケースが増えてきた。これにより、児童の状態を早期に把握し、個々の状況に応じた支援を行うことが可能となっている。こうした早期対応は、登校渋りの長期化や深刻化を防ぐことに繋がっており、KSR の果たす役割の重要性が改めて確認されている。

また、教室復帰に向けた支援については、継続的な関わりを通して、今後教室復帰が見込まれる児童もいる。児童一人一人の不安や課題に寄り添いながら、無理のないペースで支援を続けていくことで、段階的な教室復帰を目指していきたい。

さらに、教室と家庭との間にKSR という居場所があることで、「教室には行けないが、KSR であれば登校できる」と感じている児童にとって、安心して過ごせる重要な受け皿となっている。KSR は、学校との繋がりを途切れさせることなく維持する役割を果たしており、児童の心理的な負担軽減にも大きく寄与している。

次年度も、さまざまな悩みや課題を抱える児童一人一人の状況に応じた個別支援を行う場として、KSR を計画的かつ効果的に運用・活用していきたい。